

医療被ばく研究情報ネットワーク  
第5回総会 議事概要

1. 日 時 : 2013年4月12日(金) 15:40~17:00
2. 場 所 : パシフィコ横浜 国立大ホール 1階 N101 (横浜)
3. 参加者 : (別添)
4. 議題
  - (1) 議事録確認
  - (2) 運営関連
  - (3) 活動関連
  - (4) 各学会報告
  - (5) その他
5. 配付資料
  - (1) 第四回総会議事録
  - (2) 覚書(案)
  - (3) 会則
  - (4) 各学会報告
  - (5) 放射線医科学イノベーション創出に向けた統合コンソーシアム
  - (6) 参加予定者

6. 議事

(1) 議事録確認

第四回全体会議の議事録について、各学会報告における日本医学放射線学会の部分の、「日医放でも学術会議に医療被ばくのコーナーを設ける予定である。」を、「学術会議と日医放の『共同主催』にてシンポジウム開催 場所：東京大学山上会館 市民公開シンポジウム『医療被ばくを考える』」に訂正し、確認された。

(2) 運営関連

医療被ばく研究情報ネットワークと独立行政法人放射線医学総合研究所との医療被ばく研究に関する覚書(案)について、メールにて審議が行われ、訂正

された部分が報告された。「乙は乙の事業で得られたすべての研究成果を甲に提供するとともに、甲の事業に協力する。」のところで、データの提供に関して「すべて」のデータではなく「関連する」データに変更した方が良いとの提案があり、受理された。「放医研内に J-RIME の事務局を設置する」ことについて、「当分の間」という部分を明記し、「当分の間、甲の事務局を乙内に置き、運営に必要な経費（情報連絡、総会開催、機関誌発行、WEB 運営など）を負担するものとする。」に修正された。「放医研が事務局運営にかかる費用を負担する」とは、放医研が経費負担することである旨、説明があった。

続いて、「医療被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）会則」について、議論された。事務局について、会則の中で規定していたが、「本組織の事務局は別途定める」とし、覚書に従って放医研内に設置するとしたことの説明があった。

以上、2 点について、承認された。なお、団体会員について、代表から、各学会がこのような形態で J-RIME に参加することについて確認して頂きたいこと、各団体によって、母体組織または委員会など、どのような段階で了解が得られているか、事務局より本日参加されている各団体連絡先へ確認する予定であることが述べられた。

### (3) 活動関連

代表より、日本学術会議学術大型研究計画への提案について、説明・話題提供があった。日本学術会議から学術大型研究というものが提案されており、本年は 3 年に一回の見直し年であること、医学分野からはあまりこの予算への応募がされていないこと、放射線分野から放射線医学利用ということで大型研究へ応募するとのことであった。関連学会の放射線腫瘍学会は、患者個人の治療履歴は、患者が治療を受けた元の機関へ問い合わせをしなければならず、これら治療履歴が参照できるデータベースの構築が必要であること、放射線影響学会は、疫学・低線量被ばくの影響に関する実験データをまとめる必要があることが挙げられた。また、放射線被ばくに関するデータベースが必要であり、これらのデータを集約することに J-RIME が積極的に支援するとのことであった。関連分野としては、放射線治療・放射線診断・放射線疫学・被ばく医療（福島関連）・RI 内用医療（日本核医学会の要望）であり、参加団体は、日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会・日本核医学会・日本放射線影響学会・J-RIME で、各団体の理事長および会長の了解を得て、提案を上げている（理事会までは上

がっていない)との報告があった。作業担当者としては、佐々木先生(放射線防護リスクマネジメント分科会委員長)、遠藤啓吾先生(臨床医学放射線検査分科会)とのことであった。

#### (4) 各学会報告

各学会からの報告は以下の通りである。

- ・日本医学放射線学会  
日本学術会議と共同主催で、7月20日に東京大学山上会館で市民公開シンポジウムが予定されている。
- ・日本医学物理学会  
放射化物取扱いに関するガイドラインについての議論がなされている。
- ・日本放射線腫瘍学会  
放射化物の保管に対する議論について、話題提供があった。
- ・日本核医学学会  
生物医学研究志願者の放射線防護に関する提言(日本核医学会 website に掲載)に、具体的な事項がないので、Q&A集を作成して対応する。  
日本核医学会と放射線防護委員会(前委員長:本田先生)、アイソトープ協会医療管理専門委員会(委員長:大野先生)が合同で作成しようとしている。
- ・日本核医学技術学会  
第4回総会議事録について、学会報告の日本核医学技術学会の部分は、核医学会の代表で話した内容で、訂正が必要との要請があり、修正となった(日本核医学会のガイドライン作成には、日本核医学技術学会が協力している)。
- ・日本歯科放射線学会  
特別に報告する事項はなし。
- ・日本小児放射線学会  
年1回、6月に開催される日本小児放射線学会にて、小児被ばくについてのシンポジウムを開催する。
- ・日本放射線影響学会  
放射線医科学イノベーション創出にむけたコンソーシアムの形成について、人を対象とした疫学に基づく線量と影響関係に関する情報と動

物実験等で得られた情報をデータベースとして盛り込む考え方があり、具体的な内容が決まったら情報提供できるように進めている。

- 日本放射線技術学会

2月10日に仙台で学会創立70周年記念事業として医療被ばくに関する市民公開シンポジウムを開催した。また、5月18日に福島市民公開講座「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」開催した。小児CT被ばく研究班の中間報告を行った

- 医療放射線防護連絡協議会

定例シンポジウム、研修会を東京・関西で開催した。厚労省調整官が話をされた。この2年間は医療よりも福島第一原発事故後について、高橋信次記念講演・古賀佑彦記念シンポジウムフォーラムを開催している。

- 日本画像医療システム工業会

IEC 総会（上海）CTワーキンググループにてCTDI, DLP以外のCT被ばく線量指標として、AAPMより新しい指標であるSSDE（Size-specific dose estimates）が追加された。今後Dose Structure Reportに排出すべきかどうか議論された。機器のイノベーションに伴いNEMA CT標準化規格3つ、IVRに関する標準化規格1つが発行された。JIRAのHP上にアナウンスが有る。

（代表から、UNSCEARが次期グローバルサーベイを医療被ばくに絞り込んで、2013年中に開始する予定であること、電子データとして自動取得するシステムを使用したものになることの、情報提供がなされた）

- 日本診療放射線技師会

医療被ばくガイドラインの2回目の改訂へ向けて、今年度を目途に作業をしている。福島原発事故関連では、福島の子供の甲状腺検査についての派遣依頼へ対応している。

## (5) その他

代表から、放医研で行う医療被ばくについての国際シンポジウムを開催すること、招待する海外の関係者についての案を募っている旨、情報提供があった。

広報活動を行う対象は、一般市民向けなのか、比較的医療被ばくに関心のある人向けなのか、という質問が出た。これに対し、J-RIMEは会員が医療被ばく

関係の情報を共有することが目的であるので、まずは、会員の興味がある、または必要となる情報やデータへのリンク集など、会員向けということで、HP 上で医療被ばく関連情報の共有ということから行ってみてはどうか、との意見が出た。

## 参加者（一部オブザーバ参加）

- 代表（ICRP・UNSCEAR 関係）： 米倉義晴 先生（放医研理事長）  
IAEA 関係： 細野 眞 先生（近畿大学）  
国立保健医療科学院： 樺田尚樹 先生  
ICRP・UNSCEAR 関係： 小野孝二 先生（東京保健医療大学）  
（甲斐倫明先生・伴 信彦先生代理）  
日本診療放射線技師会： 北村善明 先生（常務理事）  
諸澄邦彦 先生（学術専門官）  
日本医学放射線学会： 大野和子先生（放射線防護委員会委員）  
日本放射線技術学会： 五十嵐隆元 先生（防護分科会長）  
日本核医学会： 松田博史 先生  
日本放射線腫瘍学会： 正木英一 先生  
（医療安全委員会委員長伊丹純先生代理）  
日本放射線影響学会： 酒井一夫 先生  
日本小児放射線学会： 宮寄 治 先生  
日本歯科放射線学会： 岩井一男 先生（防護委員会委員）  
日本医学物理学会： 赤羽恵一（防護委員会委員長）  
日本核医学技術学会： 渡邊 浩 先生（理事長）  
医療放射線防護連絡協議会： 佐々木康人 先生（会長）  
日本画像医療システム工業会： 岩永明男 専務理事  
伊藤友洋 放射線・線量委員会委員長  
事務局（放医研）： 酒井一夫・吉永信治  
（放射線防護研究センター）  
唐澤久美子・米内俊祐・長谷川 慎  
（重粒子医科学センター）  
島田義也・赤羽恵一・小原 哲・青天目州晶  
（医療被ばく研究プロジェクト）

その他オブザーバ